

広島大学学術情報リポジトリ

Hiroshima University Institutional Repository

| | |
|------------|---|
| Title | 文章表現能力の発達に関する研究（4）：「文章評価意識」のありようを観点として（1991年） |
| Author(s) | 牧戸, 章 |
| Citation | 国語教育思想研究 , 28 : 69 - 83 |
| Issue Date | 2022-12-15 |
| DOI | |
| Self DOI | |
| URL | https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00053363 |
| Right | |
| Relation | |



I

ひとは文章表現を行うとき、その表現を実現するために常に表現が適切かどうかを確かめている。そのフィードバックにもとづいて、適宜、修正を施しながら書き進めて行くことになる。その修正は、文字となって表出される前の心の中で行われたり、一度文字としてからされる場合もある。さらに、ひとまとまりの文章表現となってから、改めて行われることもある。この調節的行為を支えるのが、「文章評価意識」である。

調整的行為は、字句の訂正などの形で外在化することもあるが、自然な文章表現の場ではその多くは内面的な活動である。そして、その行為は自己内対話によって引き起こされるのである。

このような文章表現の内的過程を明らかにしていくことは、文章表現指導をより有効なものとするために肝要なことであると考えられる。

そのための方法として、いわゆる「推敲(敵)」にあたる一度書いた文章表現作品を読み直しての「文章評価意識」のありようを探っていくことから始めることにする。

II

「推敲(推敲)」が、これまでの実践・研究においてどのように考えられてきたのかを概観し、問題の所在を整理しておきたい。

芦田恵之助は、「批正」と「推敲」を「処理」に位置づけて、おもに「批正」は、指導者の「働くこと」であり、「推敲」は作者(児童)の「働くこと」であるとしている。したがって、作者が文章に対して責任の感をもつのは、推敲を経た後のことで、もし推敲しなければ、たとひ自分の文でも、責任感は極めて小さい。と述べている。さらに、

低学年ではまづ各自の文が滞りなく読めるということが第一で、次に文字の誤謬語句の重複をなからしめ、中学年では文に達意を害する箇所、即

ち文法上の破格をなからしめ、高学年では有力なる発表を害する箇所、即ち修辞上の誤謬をなからしむべきである。

と、指導の系統についても明確に提示している。ここには、経験的に優れたしかも確かな洞察が示されているが、その把握された子どもたちの内面で、どのような自己内対話が行われ、表現を支えているのかを探っていく必要があると考えられる。

国立国語研究所の『小学生の言語能力の発達』で行われた調査は、これまでもっとも大規模で網羅的である。次にそこでの調査結果を整理する。

- (1) 中学年から描写力が著しく伸びる。
- (2) 客観的・具体的な描写がきめるようになるのも中学年からである。
- (3) (高学年になると、)説明的な態度による記述力が次第に身につくようになる。
- (4) 文意識が明確でなく、統一的な記述力に欠けるための(反復現象などの記述の弱さ)は、文が複雑になり、記述量や速度も伸びる中学年に多い。
- (5) 低学年では書くことに夢中で、書き上げると、完成の喜びで、推敲しようとしめない。読み返して、文字の誤記をなおすようになるのは中学年以降であるが、それも少ない。推敲能力の基盤になる適否、良不良の判断・感覚、選択力などは、高学年になれば、相応にある。しかし、推敲して書きあげるという態度や技能がまだ身につけていない。「推敲(敵)」意識については、「文章を書く場合にどのようなことに気をつけているか」という調査の報告がある。

小学校2年生 ほとんどが句読点、既習漢字の使用、かっこなど

小学校4年生 以上に加えて、書こうとする意図、内容、書き方について触れる子がふえる

小学校6年生 語句の選択、事実と判断の構成の仕方、接続詞、終止形の選び方などの文章構成
大学生 以上に加えて、文章の構成とその効果、

文章に対する自分の態度

この結果からはさらに、「作文能力というのが、実は、人間の知的行為のうちの調整的行為にもかなり依拠しているのではないかということ」を予想させるものとなっている。

(中略)子どもの知的活動がそういうふうの一つのことをしながら、同時にその行為の是非を調べる行為が行われるように分化する度合いに応じて、作文能力の発達も可能性を増すのではないか」という「仮説」が導き出される。

推考(敲)指導の意義については、

推考は記述に付随した仕事である。しかし、記述をよりの確にするための推考は、同時に思考を確かなものにするための活動である。また、思考を確かなものにするためには、思考と確かに結びついて言語を選ばなくてはならない。すなわち、推考では、思考と言語との関係が、絶対にはなれられない状態で検討されていくのである。だから、推考は、思考力を練るための教育として、ひじょうに大切であるとともに、少しのことばづかいでもおろそかにしない、コトバを大事にする子どもをつくる上でも実に重要である。

と位置づけられ、また、その指導にあたっては認識と表現の統一的な視点に立つことの重要性が指摘されている。

III

次に、今回行った調査とその結果を示す。

調査日 1990年7月5日(木)2校時

1990年7月10日(火)3校時

(11:00-11:45)

調査校 兵庫教育大学附属小学校

4年1組30名(尾川佳己先生担任指導)

調査内容

1. 教生先生との思い出について1校時内で書くことだけを指示して文章表現作品を書いてもらう。(尾川先生)
2. 表現相手をかえ、1の文章表現作品に手を加えてもらう。(枚戸)
枚戸にもわかるように「もっとわかりやすく」書いてください。とし、文章表現力の発達に関する研究(4) 45

そのための方策として「1、正しくなおす 2、つけ加える 3、けずる」を提示した。その際、「けずる」は実線をひいて表すことを決めた。さらに「○青エンピツ○ははじめからおわりまでよむ」という二点を約束とした。

クラスが読み終わった段階で青エンピツを渡した。「」は板書した。

IV

子どもたちに方策として提示した3点(1、正しくなおす 2、つけ加える 3、けずる)に加えて、「4、いれかえる」および「5.その他」に分けて以下に掲げる。「2.つけ加える」では、付け加わった部分に、「3、けずる」では、削られるその元の部分を、それぞれ強調文字として示した。また、文字等の不鮮明なところを青エンピツでなぞったものを「6.なぞる」とした。その部分には下線が付してある。なお、〈 〉でどの児童の何番目に出現したものかも付した。

1. 正しくなおす

- A1 名前がはかったとき・・・名前がわかったとき〈ア-1〉
- 2 うさしかったです・・・うれしかったです〈ア-2〉
- 3 6木の・・・6人の〈ア-4〉
- 4 うさしかった・・・うれしかった〈ア-7〉
- 5 えんなかお・・・へんなかお〈ア-17〉
- 6 がんぼって・・・がんぼって〈ア-21〉
- 7 プレゼントお・・・プレゼントを〈ア-23〉
- 8 つくろう・・・つくろう〈ア-25〉
- 9 せいんして・・・さいんして〈ア-29〉
- 10 思出・・・思い出〈イ-10〉
- 11 かれんていやです。・・・かえっていやです。〈ウ-1〉
- 12 3則・・・3はい〈ウ-3〉
- 13 べんきょうあそびも・・・べんきょうやあそびも〈エ-13〉
- 14 じょうぶな歯・・・じょうぶな歯〈ケ-3〉
- 15 この学校にいない・・・この学校からいなく〈ス-2〉
- 16 教生先と・・・教生先生〈ツ-1〉
- 17 高本先でした。・・・高本先生でした。〈ツ-4〉

- 18 高本先は・・・高本先生は〈ツ-5〉
- 19 たけ林先に・・・たけ林先生に〈ツ-13〉
- 20 たけ林先・・・たけ林先生に〈ツ-19〉
- 21 もす少しでおいつかれて・・・もう少しで
おいつかれて〈ヒ-1〉
- 22 ウィンク・・・ウィンク〈ヒ-6〉
- 23 毎日プールの・・・毎月プールの〈フ-5〉

B1 先生の名前もおぼえました。・・・先生の名
前をおぼえました〈ア-3〉

- 2 なんでもなんでもないしょ・・・なんでも、
なんでも、ないしょ〈ア-13〉
- 3 おもしろかったですそれに・・・おもしろ
かったです。それに〈ア-14〉
- 4 どんなのにしてしようとかんがえて・・・どの
ようにしよう。とかんがえて〈ア-24〉
- 5 とか、なんか、しんぱいそうに・・・とか、
なにかしんぱいそうに、〈イ-4〉
- 6 ドッジボールやそういうあそびを・・・ドッ
ジボールや、そうゆうあそびを〈オ-2〉
- 7 みんな、休みじかんには教生の先生の・・・
みんな、休みじかんには、教生の先生の〈オ-
5〉
- 8 もらったりめいくを・・・もらったり、め
いくを〈オ-7〉
- 9 赤のそく炎のでん伝をはやく・・・赤のそ
く炎のでん伝を、はやく〈オ-16〉
- 10 クイズや手じなとか・・・クイズや、手じ
なとか〈オ-19〉
- 11 ものまねをしておもしろかった。・・・も
のまねをして、おもしろかった。〈オ-20〉
- 12 いよいよパートIIプレゼントをあげて・・・
いよいよパートIIです。プレゼントをあげて〈カ
-3〉
- 13 たのしそうで、わたしも、すごくたのしかっ
たです。・・・たのしそうです。わたしも、
すごくたのしかったです。〈ケ-8〉
- 14 教生の先生見られなくなりました。・・・
教生の先生も見られなくなりました。
ました。〈ケ-6〉
- 15 やったきたかといって・・・やっときてく
れたか。といって〈ケ-8〉
- 16 どろぼうがすくなからたすけようとびだし
て・・・どろぼうがすくなからたすけようと

- とびだして〈ケ-14〉
- 17 あだち先生とたかもと先生遊んで、・・・
あだち先生とたかもと先生で遊んで、〈コ-1〉
- 18 大求でまけてまけてく山先生ががどしてい
て・・・大求はこびでまけてまけてく山先
生ががくしていて〈コ-3〉
- 19 しゃかいともっともっと・・・しゃかいと、
もっともっと〈ス-13〉
- 20 にげていっしょにつかまえた・・・にげて、
いっしょにつかまえた〈ス-21〉
- 21 高木先生でしたそのあと・・・高木先生で
した。そのあと〈セ-6〉
- 22 むずかしくなりとうとう・・・むずかしく
なり、とうとう〈チ-13〉
- 23 もううたできみをおせてがおわりとうと
う・・・もううたで君をおせてがおわり、と
うとう〈チ-15〉
- 24 高本先生は、ベリーグッチョンチョンと言わ
れました。・・・高本先生に、ベリーグッチ
ョンチョンと言われました。〈ト-5〉
- 25 教えたりしてくれました。・・・教えてく
れたりしました。〈ヌ-8〉
- 26 よかった。と思いました。・・・よかった。
と思いました。〈ノ-25〉

C1 てじな・・・手じな〈ア-28〉

- 2 えをかきたいです。・・・絵をかきたいで
す。〈ス-17〉
- 3 し会・・・司会〈ノ-10〉
- 4 クリエーションがかり・・・クリエーショ
ン係〈ノ-11〉
- 5 かみのけ・・・かみの毛〈ヒ-21〉
- 6* 枠外に「巨人」と書かれている。←「巨人」
〈ト-13〉

2. 付け加える

- A1 ちがうかとか・・・ちがうかなと〈ア-6〉
- 2 こんどはかとうと・・・こんどはでたいか
とうと〈ア-27〉
- 3 わたしは、楽しみでした。・・・わたしは、
とっても楽しみでした。〈イ-1〉
- 4 と言いたいくらいです。・・・と言いた
いくらい楽しかったです。〈イ-8〉
- 5 そして、わたしたちからの・・・そして、

つぎに、わたしたちからの〈イー11〉

6 いろいろ、絵をかいたりして・・・いろいろ、絵をかいたり名前をかいたりして〈イー12〉

7 楽しかった。・・・楽しかったです。〈イー13〉

8 かえりました。先生たちのことで・・・かえりました。その時先生たちのことで〈イー14〉

9 高田先生、この4週間・・・高田先生たちとあそんで、この4週間〈イー15〉

10 いやになってきました。あと二日です。・・・いやになってきました。終がちかずにきてあと二日です。〈ウー9〉

11 あそべたりしないから・・・あそべたりべんきょうしないから〈ウー10〉

12 いろいろなおもいがありました。・・・いろいろなきょうせいせんせいのおもいがありました。〈ウー11〉

13 安立先生はなおしてくださいました。・・・安立先生はせっちゃくだいでなおしてくださいました。とてもうれしかったです〈エー2〉

14 高本先生は、とってもおもしろい・・・高本先生のくちぐせは、メリグチョンチョンがかりいています。とってもおもしろい〈エー3〉

15 いい先生になるなあとと思います。・・・いい先生になるなあとわたしは、思います。〈エー5〉

16 マンガがうまくてびっくりしました。・・・マンガがうまくてわたしは、びっくりしました。〈エー7〉

17 ミュージカル・・・うんどう会にするミュージカル〈エー8〉

18 とやさしくいって・・・と高本先生はやさしくいって〈エー9〉

19 わたしはうれしかったです。・・・わたしはそのときうれしかったです。〈エー10〉

20 ほかに金魚の水かえをしたり・・・とくに山先生と高田先生高本先生は金魚の水かえをてつだってくれたり(「高田先生」の「先生」は付け加えた後さらに付け加えている。「てつだって」の前に「かえてくださったし」と一度書いた後で消している。)〈エー11〉

21 そうじを教生の先生としたり・・・そうじのときも教生の先生といっしょにしたり〈エー12〉

22 教生の先生いとやってきました。・・・教生の先生といっしょにやってきました。〈エー14〉

23 「ぜったいにいくから、赤組をおうえんしたろな。」・・・「ぜったいにいくからな、赤組をおうえんしたろな。」〈エー15〉

24 ぎょうかんスポーツのときも大ききなかけごえで・・・ぎょうかんスポーツのときもがんばってなーと大ききなかけごえで〈エー16〉

25 教生の先生を見ていると力がわいてきました。・・・教生の先生を見ているとだんだん力がわいてきました。〈エー17〉

26 そんな先生を・・・そんな教生の先生を〈エー18〉

27 先生たちは・・・教生の先生たちは〈エー20〉

28 うれしそうでした。・・・うれしそうでした。わたしもよろこんでくれてうれしいなと思いました。〈エー21〉

29 先生からの・・・教生の先生からの〈エー22〉

30 先生いといたかった・・・教生の先生いといたかった〈エー24〉

31 しおり、手紙あめです。・・・しおり、手紙てずくりのあめです。〈エー25〉

32 この4週間本当にたのしかったです。・・・教生の先生とのこの4週間本当にたのしかったです。〈エー26〉

33 あだち先生のホームラン・・・あだち先生のさよならホームラン〈オー13〉

34 ケイドロをしてプレゼント、こうかんをして・・・ケイドロをしたあとプレゼントをこうかんをして〈オー22〉

35 おどりは、わずれられないほどおもしろかった。・・・おどりは、いまでもわすれられないほど、おもしろかった。〈オー26〉

36 仲よくなりました。はじめは、男の先生(高本英樹先生、安達武志先生)は、はじめは仲よく・・・仲よくなりました。でもはじめは、男の先生(高本英樹先生 安達武志先生。)は、はじめよく〈カー1〉

37 うたっておわりました。その時なみだが・・・うたっておわりました。そしてうたをうたっているその時なみだが〈カー4〉

38 ハンドボールクラブのことをおしえてくれました。・・・ハンドボールクラブのことをくわしくおしえてくれました。
たけばやし先生とは、いちばんなかがよかったです。〈キー2〉

39 「手を、大きくうごかして、水をうしろに・・・
「手を、大きくうごかして、たくさんの水をうしろに、〈キー4〉

40 と、いいました。はやく前にすすみました。・・・と、いいました。そうしたらはやく前にすすみました。〈キー5〉

41 うれしかったです。・・・うれしかったです。つくってよかたなあ。と思いました。〈キー6〉

42 とか、しゃべっています。・・・とかいろいろ。しゃべっています。〈クー3〉

43 「先生」・・・「先生です。」〈クー4〉

44 と、それぞれのせんせいが おしえてくれました。・・・と、尾川せんせいが、おしえてくれました。それからそれぞれのせんせいからも一言ありました。〈クー6〉

先生たちも・・・かんげい会の日、先生たちも〈クー7〉

45 わたしは・・・わたしたちは〈クー9〉

46 火曜日プールが、はじまるのが、1日、おそいです。・・・火曜日からプールが、はじまるので、みんなより1日、おそいです。〈クー10〉

47 わたしは、なきそうでした。・・・わたしは、なきそうでした。だって、もうおわかれなので、すから〈クー13〉

48 先生たちが、だいすきです。・・・先生たちが、すごくだいすきです。〈クー14〉

49 プルが始まる前の日ぼくの日がぬけた。・・・プルが始まる前の日ぐらいぼくの日がぬけた。〈クー2〉

50 いろいろな勉強を・・・いろいろなかもくの勉強を〈クー4〉

51 水泳では、たのしくいろいろやりました。ロケットマシンや、・・・水泳では、たのしくいろいろやりました。たとえばロケットマシンや、〈クー5〉

52 おわかれの日です。・・・おわかれの日なのでざん念です。〈クー7〉

53 みんなでどろけんをやる・・・おわかれかいのときみんなでどろけんをやる〈ケー11〉

54 先生を一回くぐったけど・・・先生が手でつかもうとしたからその下を一回くぐったけど〈ケー15〉

55 たか田先生と・・・さいごにたか田先生と〈ケー16〉

56 勉強をしたり・・・勉強を始めたのはたか本先生がしたり〈コー2〉

57 パートIクイズと・・・パートIをしてクイズと〈コー5〉

58 ちょっとあそんで・・・ちょっと先生とあそんで〈コー6〉

59 ちょと先生をまていて・・・ちょとあいだ先生をまていて〈コー7〉

60 せんせいからももらって・・・せんせいからプレゼントももらって〈コー8〉

61 おわかれ会の日は、・・・おわかれ会の日はパート1と、パート2両ほう。〈サー1〉

62 おわかれ会で・・・おわかれ会パートIで〈サー2〉

63 おわかれ会では・・・おわかれ会パートIIでは〈サー3〉

64 お手紙とか・・・お手紙(メッセージ)とか〈サー4〉

65 うれしかったです。・・・うれしくて、たまらなかつたです。(「です。」は、一度消した後で、「前とおなじ」と復活させることを指示している。)〈サー5〉

66 ちょう会・・・ぜんこうちょう会〈シー1〉

67 さいごにつかまりました。・・・さいごにつかまりました。すごかつかれていました。〈スー8〉

68 うたを・・・天くうのしろラピュタのうたを〈シー9〉

69 とっても楽しかった思い出・・・とっても楽しかった先生の先生との思い出〈スー1〉

70 一ばん大学の中で・・・一ばんきょう育大学の中で〈セー3〉

71 ぎょうかんで野きゅうを・・・ぎょうかん時間で野きゅうを〈セー10〉

72 休み時間に・・・休み時間には(「に」を一度消した後で、復活させている。)〈ソー2〉

73 たけ林先生とおなじで理科で・・・たけ林

先生のじゅぎょうとおなじ理科で〈ソー7〉

74 あまりまわらなかった・・・あまりはやくまわらなかった〈ソー9〉

75 社会をして高知のことをしらべたりして・・・社会のじゅぎょうをして高知のことをしらべたりよそうしたりして〈ソー11〉

76 むずかしかったけどわかりました。・・・むずかしかったけどよくわかりました。(「むずかしかった」を「わからなかった」に一度直した後で、もとに戻している。)〈ソー12〉 むずかしかったけどわかりました。

77 会のとくに外であそんだりして・・・会のとくにみんな外であそんだり〈ソー15〉

78 せんせいをちら見ていました。・・・せんせいをちらちら見ていました。〈ター1〉

79 だめとか・・・だめだよとか〈ター3〉

80 その日にぐろうして、プレゼントを・・・その日にきにいつてくれるかなと思いながらぐろうして、先生たちのプレゼントを〈ター5〉

81 いよいよお別れ会の日に・・・いよいよ、お別れ会パート1の日に〈ター6〉

82 男の先生が、・・・男の先生たちが、〈ター8〉

83 テレビを見て・・・テレビの方を見て〈ター9〉

84 いろいろやってその日は・・・いろいろやってくれてその日は〈ター1〉

85 教生先生との思いでも・・・教生先生との遊びも思いでも〈ター3〉

86 しずんでトンや・・・しずんでトンするのや〈ター8〉

87 しんぶんしやドロケンはずごくおもしろかった・・・しんぶんしというあそびやドロケンはずごくおもしろかった〈ター14〉

88 ばた足とかしている、・・・ばた足とかをしていると、〈ツー3〉

89 おぼえているのは、・・・おぼえている先生のは、〈ツー8〉

90 あんないされて一本松の所でした。・・・あんないされた所は一本松の所でした。(「の所」は、一度削除した上で横に書き直し、それをもう一度消している。)〈ツー11〉

91 理科の時間でおぼえている先生はたけ林先生・・・理科の時間でよく(おしえてくれた)お

ぼえている先生は、たけ林先生〈ツー12〉

92 教生の先生とあそんでたのしかったこと・・・教生の先生とあそんだりべんきょうをしてたのしかったこと〈ター1〉

93 はじめはおぼえられなかったけどおぼえられるようになりました。・・・はじめは先生の名前はおぼえられなかったけどおぼえられるようになりました。〈ター3〉

94 業間もよくあそびました。・・・業間も野球をしてよくあそびました。〈ター5〉

95 あそんでとつてもたのしかった・・・あそんだりべんきょうでとつてもたのしかった〈ター8〉

96 わすれてしまうから、ノートに・・・わすれてしまうかもしれないから、ノートに〈ター1〉

97 赤組は、一位ばかりでした。・・・赤組は、つなひきも、玉いれも一位ばかりでした。〈ター8〉

98 と、いったら、教生の先生は、・・・と、大きな声でいったら、先生は、〈ター4〉

99 新聞紙を・・・新聞紙というあそびを〈ター9〉

100 おわかれ会パート1は、・・・おわかれ会パート1では、〈ネー3〉

101 まず、・・・そして、つぎの日まず、〈ネー6〉

102 けいさつは、・・・ぼくたち、けいさつは、〈ネー7〉

103 一日で・・・だいたい一日で〈ノー3〉

104 むずかしいのがあるから、・・・ちよつとむずかしいのがあるから。〈ノー5〉

105 教生の先生もたいへんみたいでした。・・・教生の先生もおぼえられなくてたいへんみたいでした。〈ノー6〉

106 外で・・・えんの外で、〈ノー15〉

107 でもぜんぜんボールがこないのでもうしろだからぜんぜんボールがこっちへこないの、〈ノー18〉

108 たいくつでした。・・・たいくつだしひまでした。〈ノー19〉

109 一番多かったのは、「かんげい会を開いてくれてありがとう。」でした。・・・一番先生が言いたい言葉の中で多かったのは、「かん

げいかをわたしたちのためにひらいてくれてありがとうございます。」でした。〈ノ-21〉

110 なれてきて・・・仲よしになれてきて〈ノ-27〉

111 あそんだりしました。・・・あそんだり
はなしたりしました。〈ノ-28〉

112 ぎょう間・・・ぎょう間じかん〈ノ-29〉

113 大なわは、とても楽しかったです。・・・
大なわは、今までになくとても楽しかったです。
〈ノ-30〉

114 おもしろかって、楽しくあそべたところ
です。・・・おもしろかって、楽しくおもしろ
くあそべたところです。〈ノ-34〉

115 全部先生が・・・全部きょう生の先生が
〈ハ-4〉

116 くくられてかわいそうでした。・・・く
くられそうになってかわいそうでした。だから、
うしろ前とかいってたすけてあげました。〈ヒ
-22〉

117 けったりした。・・・けったりしました。
〈フ-12〉

118 生生も・・・きょうせいの生生も、〈へ
-3〉

119 行くので・・・あそびに行くので、〈へ
-6〉

120 わたしもいきました。・・・わたしもい
っしょいきました。〈へ-7〉

121 かなしい気持ち・・・かなしくてたのし
いような気持ち 〈へ-8〉

122 かんげい会がありゲームを・・・かんげ
い会がありましたゲームを 〈ホ-1〉

123 クイズさらに・・・クイズをやりさらに
〈ホ-4〉

124 はじめてやりました。・・・はじめてや
ったゲームです。〈ホ-5〉

125 きょうはおわって・・・きょうのところ
はおわって 〈ホ-6〉

126 おわかれかいを・・・おわかれかいパー
トⅡを 〈ホ-8〉

127 おわりつぎに・・・おわりましたつぎに
〈ホ-9〉

128 おわりさようなら・・・おわりになりま
したさようなら 〈ホ-11〉

B1 うれしかった。〈ア-30〉

2 本当に、またあいたいです。〈イ-17〉

3 わたしの、一番、仲よしの先生は、堤先生で
す。わたしは、先生だちと、やくそくしました。
「またあそびにきてね。わたしたちも、あそび
にいくね。」と、さいごに、いいました。〈ク
-15〉

4 教生の先生と一か月ちょとしかいなかったけ
どとってもたのしかったです。また、ぼくは、
教生の先生とあいたいなおもいました。〈シ
-12〉

5 もうちょっとたでいいからいてほしかったで
す。〈テ-9〉

6 おわかれ会パーⅡが、おわって、ぼくは、先
生に、いろんなことを、ノートに書いてもらい
ました。〈ト-12〉

7 であったときも声をかけたいです。〈ナ-19〉

3. けずる

A1 ゆう気がわいてきてなんだか 3 勝ちまし
た・・・ゆう気がわいてきて3勝しました〈ウ
-4〉

2 プールにはいるときも、くもりでも、高本先
生が・・・プールにはいるときも、高本先生
が 〈ウ-7〉

3 ダンバダというおどりをおどってたのしそ
うでした。・・・ダンバダをおどってたのしそ
うでした。〈エ-4〉

4 赤ぐみをつよくしていっていき 9 はいからふ
やさないようにがんばりたい。・・・赤ぐみ
をつよくしてがんばりたい。〈オ-17〉

5 選んだりしているとだんだん男の、先生にもな
れて・・・遊んだりしていると男の、先生に
もなれて 〈カ-2〉

6 教生の先生がたがくるのが・・・教生の先
生がくるのが 〈ク-1〉

7 わたしたちは・・・わたしは 〈ク-2〉

8 つくえをもって4の1の教室・・・つくえ
をもって、教室 〈シ-2〉

9 よくうってはやい足をつかってホームランを
いっぱいうちました。・・・よくうってホー
ムランをいっぱいうちました。〈シ-3〉

10 うまいよとか、ベリーグッチョンチョンとか
いって・・・うまいよとかいって 〈ス-3〉

11 えをかいてくれたりいろいろしてくれました。……絵をかいてくれたりしてくれました。〈スー6〉

12 もっともつこの学校に……もつこの学校に〈スー9〉

13 算数とってもわかりやすくてたのしかったです。……算数とってもわかりやすかったです。〈スー12〉

14 先生がぼくたちのクラスの……先生がぼくたちクラスの〈セー4〉

15 とてもたのしかったです。……たのしかったです。〈ソー4〉

16 むずかしかったけどさいごまでできました。……むずかしかったけどできました。〈ソー6〉

17 とてもたのしかったです。……たのしかったです。〈ソー10〉

18 できてるしたのしかった……できてしたのしかった〈チー2〉

19 ときどき注意もされましたが、それもそれでぼくもそういうことをまなんでいました。……ときどき注意もされましたが、それでぼくもまなんでいました。〈チー5〉

20 バタバタ足……バタ足〈チー6〉

21 算数のけいさんも……算数も〈チー12〉

22 とくに水泳の時間は、……水泳の時間は、〈ツー2〉

23 どんなのかとかで……どんなのかで〈ツー15〉

24 教生の先生たちに……教生の先生に〈ツー23〉

25 男の先生もいるかなと、ドキドキしました。……とドキドキしました。(「と」は横に書き加えている。)〈テー2〉

26 ヒットをうち、いっきに、セカンドまで、……ヒットをうち、セカンドまで。〈トー4〉

27 そうじのときとかに……そうじのときに〈ナー4〉

28 いなくなるしうしろも、あいてしまうし、遊の時間も……いなくなるし、遊の時間も〈ナー13〉

29 ずっとおぼえておきたいです。……ずっとおぼえて、たいです。〈ナー18〉

30 ぜんぜんしりませんでした。……しりま

せんでした。〈ノー2〉

31 楽しくあそべる時間が……あそべる時間が〈ノー7〉

32 わたしの友だちといっしょに……友だちといっしょに〈ノー9〉

33 やきゅうをしたりして……やきゅうをしたり、〈フー3〉

34 石ひろいをやったりして……石ひろいをやったり、〈フー2〉

35 フープをもっていて、……フープをもって、〈フー3〉

36 やるときには……やるときは〈フー4〉

37 走って行きました。……行きました。〈ノー2〉

38 その次には、……その次は、〈へー9〉

39 ラピュタおんがくでいっしょにうたったうたです……ラピュタです。〈ホー10〉

B1 そして、きゅうしょくでかたもとせんせいが七班にきて、酒井くんが、こどもうんだら、なんてなまえにするってゆってわらいました。なぜかとゆうと、まだ、けっこんしていないのにゆっておもしろかったです。……(削除)〈ウー5〉

2 水泳の時間に、しずんでトオーンをしてぜんぜん5ばんからすすみませんでした。……(削除)〈オー10〉

3 これで赤組が1位になりました。……(削除)〈オー15〉

4 この日だけ、じゅうじかんがありました。わたしはあしたもあれば、いいなとおもいました。……(削除)(「ゆ」ははじめは「ゆ」と書いてあった。)〈クー11〉

5 つめたい水だけどたのしかったです。……(削除)〈シー5〉

6 おわり……(削除)〈シー11〉

7 ぎょうかんがおわってかえるころあだち先生がじどうげんかんの近くのすいどうで、あついなあとって水をのんでいました。……(削除)〈セー12〉

8 朝……(削除)(一度「休み」と訂正したあと、その「休み」も消している。)〈テー4〉

9 この前女の教生とでさおりという店で、であいました……(削除)〈テー7〉

- 10 ブールドックは、見てなかったけど・・・(削除)〈トー6〉
- 11 でも、いまのうちに、たくさんありました。・・・(削除)〈ナー9〉
- 12 たかだ先生とは、あまりはなしをしていないけど、今だったら、はなしがしたいです。・・・(削除)〈ニー1〉
- 13 わたしは、おぼえられてよかった。と思いました。一日目がおわって、教生の先生との二日目が始まりました。・・・(削除)〈ノー4〉
- 14 それにおもしろかったです。わたしは・・・(削除)〈ノー31〉
- 15 それを今から書きます。・・・(削除)〈ノー32〉
- 16 あだち先生は、・・・(削除)〈ノー33〉
- 17 そしてまだあります。・・・(削除)〈ハー2〉
- 18 ぼくが、学校へいく時も、先生がいました。・・・(削除)〈ハー3〉
- 19 まだあります。・・・(削除)〈ハー5〉
- 20 自分の名前を書いたり、絵をかいたりしている子がたくさんいました。・・・(削除)〈ヒー4〉
- 21 女の先生だけでウィングのまねをして、男の先生は、男の先生でなにかをしたいのにとおもったけれど、みんなを楽しませてくれたからよかったと思いました。・・・(削除)〈ヒー7〉
- 22 つつみ先生は、やさしい先生でした。(削除)〈ヒー12〉
- 23 ちびまる子ちゃんの絵は、だれがやってくれたのかな、と思いました。・・・(削除)〈ヒー13〉
- 24 よく話したです。・・・(削除)〈ヒー14〉
- 25 一番かみの毛がみじかいなあ・・・(削除)〈ヒー15〉
- 26 たかだ先生は、かみの毛は、ながくて、きれいでした。たかだ先生は、よくお話をしたりしました。・・・(削除)〈ヒー16〉
- 27 とおってもよくお話をしました。・・・(削除)〈ヒー18〉
- 28 一番すきでした。・・・(削除)〈ヒー19〉
- 29 先生が。(「。」のあとの「」を消している。)〈ヒー20〉
- 30 ぼくは、・・・(削除)〈フー8〉
- 31 あっ教生の先生だ。・・・(削除)(次の文は、「6月の」で始まるが、その前に「はじめ」と注記されている。)〈へー1〉
- 32 また休みの時間に教生の先生のところへいくと、とても楽しいです。・・・(削除)〈へー5〉
4. いいかえる
- 1 うれしのの時間には・・・うれしのかつどうには〈アー5〉
- 2 あだち先生にとらしてもらたり・・・あだちせんせいにやらしてもらたり〈アー8〉
- 3 たたかいを・・・たたきあい〈アー10〉
- 4 4—1・・・4の1〈アー12〉
- 5 とてもとってもうれしかった・・・みようとおもってとてもうれしかった〈アー22〉
- 6 楽しかったと思います。・・・楽しかったです。〈イー2〉
- 7 わからないみたいに言ったら、・・・わからないみたいにしたら、〈イー3〉
- 8 お話し、して・・・お話しをして〈イー6〉
- 9 わらかして・・・わらわして〈イー7〉
- 10 かなしそうな、うれしそうな・・・かなしそうな、たのしそうな〈イー9〉
- 11 と言いたい気が・・・とっていつばいはなしたい気が〈イー16〉
- 12 ウイウクのマネを・・・ウイウクのおどりを〈エー23〉
- 13 教生先生がきたとき、・・・教生先生がきた月曜日、〈キー1〉
- 14 「もうちょっと手をのぼしてやってごらん。」・・・「もうちょっとうかんでおいてやってごらん」〈キー3〉
- 15 また、たけ林先生たちきてほしいです。・・・また、きょう生の先生たちきてほしいです。〈キー7〉
- 16 ぼくは、へのへのもへじを書きました。・・・ぼくも、みんなとっしょにらく書きをしました。〈ケー1〉
- 17 先生のおどりは、はっきりいって、きもちわるかった。・・・先生のおどりをしているのはっきりいって、きもちわるかったです。〈ケー17〉
- 18 なんか、きしょくわるかったです。・・・

- なんか、気持ちわるい。です。〈サー6〉
- 19 もりつくんとかぼくはあだち先生に・・・
もりつくんやぼくは、あだち先生に〈シー9〉
- 20 いっぱいおもしろいことやいっぱいしてく
れました。・・・いっぱいおもしろい話しや
いろいろしてくれました。〈スー7〉
- 21 すぐおともだちになりました。・・・すぐ
におともだちになれました。〈スー11〉
- 22 教生の先生にべんきょうををしえてほしか
ったです。・・・教生の先生にべんきょうを
をしえてもらいたかったです。〈スー14〉
- 23 とうとうおわかれかいのとき・・・教生の
先生とおわかれかいのとき〈スー19〉
- 24 その会が終って・・・その朝の会が終って
〈セー5〉
- 25 じゅぎょうや国語の・・・じゅぎょうのこ
と国語の〈ソー1〉
- 26 とてもおもしろかったです。・・・とても
たのしかったです。〈ソー3〉
- 27 べん強をしてとてもたのしかったです。・・・
べん強をしてよくわかりました。〈ソー5〉
- 28 よくわかってとてもたのしかったです。・・・
よくわかりました。〈ソー8〉
- 29 この教生の・・・6人の教生の〈ソー13〉
- 30 いっしょにしてくれて・・・いっしょにし
てたりして〈ソー14〉
- 31 先生がウインクのまねをして・・・先生は
ウインクのおどりをしてくれて〈ソー16〉
- 32 あだち先生の、体育です。・・・あだち先
生が、体育をしてくれました。〈ター2〉
- 33 わたしたちがまけてしまったと思います。
土ようびには、プレゼントを・・・わたした
ちがまけてしまいました。おわかれかいパート
2では、プレゼントを〈ター7〉
- 34 先生からのプレゼントは、メッセージのかいた
かわいいまるこちゃんのがようしでした。ち
よつとかなしかったです。・・・先生からの
プレゼントは、メッセージでした。ピンクの画
用紙に、ちびまる子ちゃんの絵がくっついてい
ました。みんなとても、かなしそうな、かおお
していました。わたしも、とてもかなしかったです。
〈ター10〉
- 35 水泳もぐんぐんせいちょうして・・・水泳
もぐんぐんうまくして〈チー7〉
- 36 バタ足タプラスビートパンももっと・・・
バタ足とビートパンをもっと〈チー9〉
- 37 ちょっと・・・ちょっと〈チー10〉
- 38 けど・・・だけど〈ツー6〉
- 39 思ったよりわかりやすかったです。・・・
思ったよりわかりやすかったです。〈ツー25〉
- 40 「キンコーンカーンコーンキーンココカーンコ
ーン」となって・・・ちやいむがなって〈テ
ー6〉
- 41 先生に、おんぶしてもらい・・・先生に、
かたぐるまをしてもらい〈トー2〉
- 42 先生と、・・・先生や、〈トー3〉
- 43 マークのついたしゃべるやつで、・・・マ
ークのついたおうえんするもの、〈トー7〉
- 44 けんご君を、たたきました。そのとき、ぼく
は、なんにもおもいませんでした。・・・けん
ご君のあたまをたたいた。そのとき、それは一
人だけで、また、ぼくは、大ともだちなのにわ
らいました。〈トー8〉
- 45 しょうむなかったです。・・・おもしろく
なかったです。つかれただけでした。〈トー9〉
- 46 おもいきりやりました。・・・おもいっ
きりあそびました。〈トー10〉
- 47 教生の先生が、いてくださっておうえんなど
してくださったおかげで、
いつもいてくださっておうえんしてくださった
おかげで、・・・教生の先生が、いつもいて
くださっておうえんしてくださったおかげで、
〈ナー7〉
- 48 ながいことかかったから、・・・ながくた
いけつしたから、〈ニー2〉
- 49 しゃべりもしなかったけど・・・話もし
なかったけど、〈ヌー1〉
- 50 みんなと・・・先生と〈ヌー2〉
- 51 先生がきて・・・先生がきたら、〈ヌー
2〉
- 52 へんじを返してくれました。・・・へんじ
をしてくれました。〈ヌー5〉
- 53 いつかは・・・いっとしたら、〈ヌー6〉
- 54 わっかを・・・フープを〈ネー1〉
- 55 思い出がのこりました。・・・思い出がで
きました。〈ネー2〉
- 56 すごく答えがでてしまいました。・・・す
ごく答えがあってしまいました。〈ネー4〉

57 もんだいは、ぼくは、その答えをしまって……
もんだいのこたえを、ぼくは、しまって〈ネー5〉
58 先生がくる日は、……先生がこられる日は、
59 あそぶ先生の先生……大好きな先生の先生〈ノー8〉
60 上からあたったら、どうしよう。とこっちは、
びくびくしてしまいました。……上の方から
あったら、どうしよう、とこっちは、にげ
まわっていました。〈ノー14〉
61 ボールをまもるやくでした。……ボール
をとってあてるやくでした。〈ノー16〉
62 ボールをまもりました。……ボールをう
けました。〈ノー17〉
63 いろいろあったけど……たくさんあった
けど。〈ノー20〉
64 話をしている……言葉をはなしている〈ノ
ー22〉
65 うれしそうにしているかな。とおもって……
たのしかったかなと思っていました。〈ノ
ー23〉
66 たのしくしてくれたのと思ったから……
たのしくやってくれたような顔だったから、〈ノ
ー24〉
67 ほんとうにたのしんでくれたのかな。とおも
いました。ほんとうにたのしんでくれていたら
いいのにな。と思いました。……ほんとう
にたのしんでくれたのかなとちょっとおも
いましたが「ほんとうにたのしんでくれているよ
ね。と思いました。〈ノー26〉
68 遊びを……遊んだ〈ハー1〉
69 やっていたから……やっていたので、〈フ
ー6〉
70 やるといったので、ぼくは、お川先生が……
やるといいました。お川先生が〈フー7〉
71 おいしいなと、高本先生がいいまし
た。……おいしいなって、高本先生がいつ
てくれました。〈フー9〉
72 ぼくがいったら、……ぼくが言と。〈フ
ー10〉
73 おわかれかいで、やと、……おわかれ
かいのときだけ。〈フー13〉
74 できたよ。……できたんだらう。〈フー
14〉

75 きもちわるかったよ。……きもちわるか
ったです。〈フー15〉
76 さい後のへんになると、……さい後
の日になると、〈へーA〉
77 言葉がかいてありました。……言葉とし
ゃしんがありました。〈へー10〉
78 いやです。……ざんねんです。〈ホー2〉
79 ぎょうかんに……ぎょうかんで〈ホー3〉
80 それでつぎの日そしてづぎの日〈ホー7〉
81 ばんごうをおしえてもらって……ばんご
うを書いてらって〈ホー12〉

5. その他

1 いったりたのしくできました……いった
りしのしくできました〈アー9〉
2 かつこいいやろほしいやろうでもやらんから
な……かつこいいやろでもやらんからな(「で
も」は一度削除したあとで復活)〈アー19〉
3 「すきになりな。」(「といてくれた。」を一
度書き加えたあとで削除)〈アー20〉
4 おもいました。(「い」は正しく書かれている
が、斜線をした上で横に「い」を書き加えてい
る。)〈アー26〉
5 まだあったような、気もするけれど、いっぱ
い、お話をしました。……まだあったよう
な、気もします。いっぱい。お話もしました。
〈イー5〉
6 いつも、いつも遊んだりしたけどもう、
*できないようになりました。もっと、もっと
あそびたかったです。……もっと、もっと
あそびたかったしべんきょうしたかったです。
(※に、「あそんだりべんきょうしたり」と一度
書いた後で消している。「べんきょうしたかつ
た」と一度書「いた後で「かった」を消してい
る。)〈ウー2〉
7 酒井くんがせんせいそうじぜんぜんじぶんが
してないのに……酒井くんがぜんぜんそう
じじんがしてないのに〈ウー6〉
8 まどに、テープではってたからだれがわった
かなとおもいました。それが、あだちせんせい
からきたけど、パンチでわったからすごいとお
もいました。……こんなたのしいせんせい
がいたらがっこうがゆかいでたまらないほど
うれしくてたまりませんでした。〈ウー8〉

- 9 ふでばこがこわれた(「こ」を一度消して横に何かを補おうとまではしている)〈エー1〉
- 10 たけ先生は、てか林先生とよばれてとつてもたのしい先生でした。・・・たけ林先生は、とつてもたのしい先生で、ちゅういもしてくださいました。〈エー6〉
- 11 おわかれの日がやってきておわかれ会・・・おわかれの日がやってきました。おわかれ会〈エー19〉
- 12 おはなししたりしたことが、いちばん、心の中にこっています。(「いちばん」を一度削除した後で復活させている。)〈ケー12〉
- 13 かいていて、きのう、・・・かいていた。きのう、〈ケー9〉
- 14 大西君かいてくれてないから書いてと先生がいったら・・・大西君も書いてくれてくれない先生がいったら〈ケー10〉
- 15 かんげいかいがちかずいて(ここを一度消して、「たのしかったその次の日に」を書こうとしている。さらに「たのしかったその次の日に」を消している。)〈コー4〉
- 16 はじめのほうは、「は」を一度消した後で復活させている。)〈シー4〉
- 17 おわりました。(「だれも」と書き加えはじめて消している。)〈シー10〉
- 18 たのしい先生ばかりだった・・・たのしい先生ばかりだった〈スー10〉
- 19 お別れ会まで(「お」を一度書き加えて消している。)〈ター4〉
- 20 みんな「先生は」と一度訂正した後で、「先生は」を消している。)〈ヌー7〉
- 21 T シャツに、(「T」に「ティ」とよみが書き加えられている。)〈ヒー3〉
- 10 こくわをもらいました。〈オー9〉
- 11 3組たい1組 〈オー12〉
- 12 ぎょうかんスポーツ 〈オー14〉
- 13 パートⅠで 〈オー18〉
- 14 パートⅡは 〈オー21〉
- 15 プレゼントを 〈オー23〉
- 16 おもいました。 〈オー24〉
- 17 さいごの 〈オー25〉
- 18 1 かげつ 〈オー27〉
- 19 「あっ」 〈オー28〉
- 20 ゆうまにすぎて 〈オー29〉
- 21 ろうやのみはりをしていました。 〈ケー12〉
- 22 どろぼうだから 〈ケー13〉
- 23 することになりました。 〈シー6〉
- 24 とつてもたのしかったです。 〈スー4〉
- 25 とくやま先生は、 〈スー5〉
- 26 教生の先生でした。 〈スー8〉
- 27 つつみ先生ともっともっと 〈スー15〉
- 28 あだち先生ともっとたのしい話しがしたかった 〈スー16〉
- 29 いっしょに 〈スー18〉
- 30 たのしかったです。 〈スー22〉
- 31 教生の先生のことは、ぜったいわすれません。 〈スー23〉
- 32 高いなあ。 〈セー1〉
- 33 あの先生 〈セー2〉
- 34 思い出が 〈セー7〉
- 35 高本先のことでの思い出。 〈セー8〉
- 36 そこで遊んだ 〈セー9〉
- 37 インプレー 〈セー11〉
- 38 あだち先生 〈セー13〉
- 39 いっぱい 〈チー4〉
- 40 いきました。 〈チー11〉
- 41 いっぱいでした。 〈チー16〉
- 42 だけでした。 〈ツー7〉
- 43 先生でした。 〈ツー9〉
- 44 高田先生に 〈ツー10〉
- 45 もらったのは、 〈ツー14〉
- 46 ビニルハウス病 〈ツー16〉
- 47 もらった先生 〈ツー17〉
- 48 いないけど 〈ツー18〉
- 49 でした。 〈ツー20〉
- 50 先生とおなじで 〈ツー21〉
- 51 した。 〈ツー22〉

6. なぞる

- 1 はやくたべるんだ 〈アー11〉
- 2 しました 〈アー15〉
- 3 そして 〈アー16〉
- 4 ひざ 〈アー18〉
- 5 先生が 〈オー1〉
- 6 高本先生も 〈オー3〉
- 7 先生や 〈オー4〉
- 8 え・・・絵 〈オー6〉
- 9 していました。 〈オー8〉

- 52 もらったじゅぎょうは、〈ツ-24〉
- 53 うれしかったけど、〈ト-11〉
- 54 四年一組 〈ナ-1〉
- 55 はいって 〈ナ-2〉
- 56 でも、〈ナ-3〉
- 57 なったりして、〈ナ-5〉
- 58 楽しかったです。〈ナ-6〉
- 59 たくさん 〈ナ-10〉
- 60 さいごの日 〈ナ-11〉
- 61 おわかれしてしまう 〈ナ-12〉
- 62 教生の先生の 〈ナ-14〉
- 63 おもしろくなくなっても、〈ナ-15〉
- 64 先生が、〈ナ-16〉
- 65 と思いました。〈ナ-17〉
- 66 高本先生は、〈ヒ-2〉
- 67 と聞くと 〈ヒ-5〉
- 68 しゃんみたいな 〈ヒ-8〉
- 69 わたしの 〈ヒ-9〉
- 70 つつみ先生が図工の 〈ヒ-10〉
- 71 したときに 〈ヒ-11〉
- 72 にていました。〈ヒ-17〉
- 73 いきなり 〈フ-11〉

V

「1. 正しくなおす」の A(1~23)は、誤記・脱落など表記上の誤りの修正である。23では、直そうという意識が強くなりすぎたのか、事実とは異なってしまったことになった表現もみられる。B(1~26)は、助詞そして文構造にかかわっていく修正である。句読点の用い方も、文にするかどうかという陳述の態度のあり方としてここに分類している。12のように「一です。」とはっきりと言いきって文にするものである。24では、主体と客体との関係からの係り受けの修正をしている。26では、会話文との関係で文意識の働いているのを見ることが出来る。C(1~6)は、漢字表記に係わるものである。6では、試みに書いてみて、正しい字を記憶にあったイメージから導き出している姿を見ることが出来る。

「2. 付け加える」の A は、文章中に付加されたものである。1の「な」からは会話をより描写しようとしていることがわかる。5の「つぎに」を用いて順序性を明確にすることは、自分が出来事の記憶をたどって、コトバ化するとともに、読者に分

かりやすくする説明的制度の現れであるとも言える。36「でも」40「そうしたら」44「それから」なども同様の指摘ができる。また、説明的態度は、20の先生の名前をすべて挙げるところや、26、27.29.30.115.118の「教生の」を付したりするところにも顕著に見られる。14では、具体的なはなし癖で、おもしろさを説明しようとしている。24では、くわしく描写することになっているが、話法の問題へとつながっていくことが考えられる。28では、自己の思いを思い出しながら付している。35は、現在の時点にたつての書き方としての強調の表現である。36では、その時の強調の表現になっている。44では、記憶を忠実にたどり、事実関係を正確に書こうとする姿がうかがえる。47では、理由の補足を行っている。51では、「たとえば」という語を用いての例示をしている。64では、()による補足をしており、言いかえの説明している。これは、91にも見られる。65「前とおなじ」は、対読者意識の現れである。75では、授業の場面を思い出して、具体的な活動を表現してくわしく述べていることがわかる。80では、心内語の描写を行って、気持ちをよく思い出して書いている。87では、「~という」語を用いての説明を行っている。これは、99にも見られる。90「所」を入れるかどうかで悩んでいるところには、「所」という語の重複に対して留意する言語意識を見て取ることが出来る。107では、因果関係を付け加えて表現して説明する姿が見られる。113は、「とても、大変」以外の強調の仕方であり、長い時間にわたることを示唆する言い方で、それにかなうだけの下地を感じさせるものとなっている。116ではその時の自らの気持ちに支えられた行動が付け加えられている。121では、くわしく、わかりやすくしようとする過程の中で、二つの気持ちのあったことをコトバ化して表現できるようになっている。B(1~7)は、文章の最後に付けられたもので、いずれも気持ちを付け加えていることがわかる。

「3. けずる」の A(1~39)は、一部分が削除されたものである。4では、削った部分をわかるようにするためには、さらに多くの説明が必要であり、文章全体からみて、削ることにしたのかと推測される。12、15、17は、強調の表現が過ぎているという意識の現れであると考えられる。19は、文が

整い、すっきりとして表現になっている。20は、語の成立ちとしての的確な表現になっている。25、26では、読み手としては、ある方が分かりやすいと感じられる削られた表現もあることがわかる。ただし、26の「いっきに」は、すぐあとの重複を避けたものであるかもしれない。28は、教生のいる教室のうしろもという意味であろうが、わかりにくいと考えたのであろうか。33、34、35では、簡潔性のある表現となっている。39では、音楽の時間のことは、知らないだろうと考えて削ったものと考えられる。

B(1~32)は、大きな部分、あるいはそこに係わる表現のすべてを削除したものである。17、19に見られる広義の「つなぎことば(文章操作語)」は、文脈を明確化するために用いることから、やがて使わなくてもわかる文章へと向かうことを示唆していると考えられる。

「4.いいかえる」では、より表現の適切性に対して意識が働き、「5.その他」では、さまざまに迷いながら、表現しようとする姿がうかがえる。また、「6.なぞる」では、表現の内容だけでなく表記(字が読めるか、美しいか)にまで気を配っていることがわかる。なお、「4・5」の項目の内容については、稿を改めて考えてみたい。

このように見てくると、推考(敲)能力の基盤となる能力というもの、これまでの例えば国立国語研究所の調査結果などの指摘よりももう少し低い学年から、つまり、もっとはやくから形成されているのではないかということが示唆される。今回の調査では対照となる調査を設定していないためこれ以上は述べられないが、仮説として設定し、今後検証していくことを課題としたい。あわせて具体的な指導のあり方をも求めなければならない。推考(敲)を表現の正確さへと修練していく方向だけではなく、表現相手をかえたりというさまざまな場面を設定し、意識的・自覚的な表現の機会を組織化することが必要であろう。

(注)

- 1) 芦田恵之助「処理」『綴り方教授』「第四章 綴り方教授の系統」香芸館出版部、のち育英書院。(大正2年3月)ここでは『芦田恵之助国語教育全集第2巻 綴り方実践編 その一』明治図書(1987)p.307から引用した。その際、旧仮

名づかいのままとしたが、漢字は新漢字に改めた。

- 2) 注1)に同じ。 p.308
- 3) 国立国語研究所『小学生の言語能力の発達』明治図書(1964.10)作文力の発達 pp.324~451より。()は、引用者が補った。
- 4) 芳賀純「作文能力の基盤」『現代作文講座 1 文章とは何か』明治書院(1977)p.154
- 5) 汐見稔幸「言語能力の発達と学習」『岩波講座 子どもの発達と教育 5 少年期 発達段階と教育 2』岩波書店(1979、10、25)p.69
- 6) 今井啓次郎「生活綴方の推考指導【特性】」日本作文の会『生活綴方事典』明治図書(1958.9)p.333
- 7) 発達・認知心理学の立場から、推敲方略の発達を内観プロトコルを用いて調査した一連の研究がある。
内田伸子「子どもの推敲方略の発達一作文における自己内対話の過程」『お茶の水女子大学人文科学紀要』第42巻(1989.3.7) pp.75-104
安西祐一郎・内田伸子「子どもはいかに作文を書くか?」日本教育心理学会「教育心理学研究」第29巻第2号(1981、12) pp.323-332
内田伸子『子どもの文章書くこと・考えること』シリーズ人間の発達1 東京大学出版会(1990、6、20)
内田伸子「文章産出における自己内対話」浜田寿美男ほか編『別冊発達 10・発達論の現在』ミネルヴァ書房(1990.6.25) pp.81-98
内観法を子どもたちに用いることは、文章表現の際の自分の心理を後になってとらえなおす作業となり、大きな抵抗のあることになる。ここでの知見をどのように位置づけて、教育・指導と結んでいくか課題となるため、今回、本稿においては取り上げてはいない。
- 8) 注3)に同じ。

(付記)

本稿は、第78回全国大学国語教育学会(1990年8月2日)における自由研究発表「文章表現能力の発達(5)『文章評価意識』のありようを観点として一」を基にしてまとめた。発表の席上多くの方々のご指導をいただいた。

調査にあたっては、兵庫教育大学附属小学校の

尾川佳己先生に格別のご配慮、ご協力をいただきました。先生、そして4年1組の児童のみなさんに感謝申し上げます。

編集部注 初出

『兵庫教育大学研究紀要』第2分冊，言語系教育・社会系教育・芸術系教育 11, 43-58, 1991